

# 登米市生活支援 体制整備事業

## ～5年の歩み～

社会福祉法人登米市社会福祉協議会

はじめに…

平成 27 年 4 月の介護保険制度改正により、新しい介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、高齢者の多様な生活支援ニーズに対応するとともに、「住民主体の生活支援サービス」を拡充し、支え合いの体制を地域に作っていくことになりました。

その背景には、今後さらに進展する高齢化による要介護者の増加、また単身世帯の増加と社会的孤立の拡大に対応していくためには、専門職によるサービスだけでなく、住民自身による助け合いの力が必要とされている状況があります。

しかし、地域にはすでに様々な助け合いがあります。これらの活動の多くは介護保険制度が始まる前から地域住民のニーズや思いに応じて始まったもので、その背景には必ず、困った人をそのままにしておけないという住民の想いと、それを解決していこうという住民の主体的な取り組みがあります。このような助け合い・支え合いが広がって、すべての人が安心して暮らせる地域づくりを進めていくことが**生活支援体制整備事業**の目指すべき取り組みです。

上記のことから、登米市社会福祉協議会では平成 28 年度から事業委託を受け、地域課題やキーパーソン等を発掘し、事業を推進してきました。昨年度で委託から 5 年という節目となり、この度、5 年間の歩みとして事業推進の状況をご報告させていただきます。

## - 目 次 -

1. 各圏域の推進状況	
(1) 登米市全域	・・・ P1
(2) 迫圏域	・・・ P15
(3) 登米・東和圏域	・・・ P17
(4) 中田・石越圏域	・・・ P21
(5) 米山・南方圏域	・・・ P25
(6) 豊里・津山圏域	・・・ P29
2. あとがき	・・・ P35

登米市生活支援体制整備事業アドバイザー  
コミュニティ・エンパワメント・オフィス・フィールド  
代表 栞原 英文

# 登米市 全域

平成 28 年度より事業委託を受け、「助け合い・支え合いが広がって、すべての人が安心して暮らせる地域づくりを進めていこう！」その合言葉で始まった登米市生活支援体制整備事業。紆余曲折あり、この事業自体これから先どのように進んでいくのか、雲を掴むような話を繰り返し行ってきました。

今ある地域のつながりを壊さずに新たなつながりの創設、高齢者のみならず地域住民を対象にした生活基盤の再構築など、この事業に課された目的は「地域福祉の根源を見直し、新たな地域福祉サービスを展開していくもの」に近いものが理想なのではないかと感じております。

## ●生活支援コーディネーター及び協議体の設置・活動状況（令和 3 年 3 月末現在）

設置圏域	生活支援コーディネーター	協議体	委員数
(第一層) 登米市全域	1 名	第一層協議体	20 名
(第二層) 迫圏域	1 名	迫圏域協議体	15 名
登米・東和圏域	1 名	登米・東和圏域協議体	16 名
中田・石越圏域	1 名	中田・石越圏域協議体	20 名
米山・南方圏域	1 名	米山・南方圏域協議体	20 名
豊里・津山圏域	2 名	豊里・津山圏域協議体	15 名

## 〔生活支援コーディネーターの活動〕 ※延べ活動件数（H28.4月～R3.12月）

項目	件数
地域、行政区等への訪問（地域住民やボランティアとの交流も含む）	3,543
事業説明（各種会議での説明も含む）	684
コミュニティ組織等との連携	619
愛好会、サークル活動等との連携	581
その他各種関係機関との連携（社協事業との連携も含む）	1,770
計	7,197



### ○第一層（登米市全域）協議体

初年度は市全域的な研修を開催し、「昔はあったが、今は無くなったこと」「今は無いが、今後必要と思われること」をグループワーク形式で意見を出し合いました。その中で「近所づきあい」や「伝統文化の継承」など、何気なく行われていたことや代々受け継がれているものが希薄化しており、「今後必要なこと」にも同じものが出ており、「無くなったものが必要になってきている」と感じるものが多くありました。また、全市的な課題としてあげられる「交通弱者の社会参加、買い物等への移送手段」についても協議を重ね、その中で、企業等の空き時間を利用した送迎が出来ないか、住民バスの活用方法について、既存の資源を組み合わせることで新たなサービスが生まれるのでは等の意見が出され、「高齢者の外出支援について」協議していくことになりました。

新たなサービスを展開するにあたり、運輸局への許可申請、タクシー協会との調整、公共交通会議での調整など、課題が多くあるので、市全域での取り組みではなく、各町での取り組みにしていければ、課題も少なくなると感じられることから、既に地区コミュニティで意欲を示している地域もあるので、そこの地域に重点をおき、第一層としても協力していければ良いのではないだろうかという合意に至り、各圏域による課題検討としました。

モデル事業として第 1 期～第 3 期まで広く募集し、生活支援コーディネーターが資源調査をしてきた中からより優れた地区をモデル地区として指定し、他の模範となるような地域行事の開催や担い手の育成に取り組んでもらいました。

(主な取り組み)

○平成 28 年度～令和元年度まで「モデル地区」として、地域内において先駆的な取り組みを行っている団体やサークル、地域活動を選定。(下表参照)

■第 1 期 (平成 28 年 10 月～平成 30 年 3 月)

本田行政区 (迫町)

主な活動内容

『地域の誰もがつながる場づくり』

本田行政区は迫町域で 6 番目に高齢化率の高い地域であり、様々な地域行事を行うことで地域内のつながりを強化しています。その主体となっているのが、区民相互の親睦と、地域行事の円滑な運営を図るべく、20 代から 40 代を中心として結成された「本田区親和会」。平成 29 年度には親和会設立 30 周年にあたり記念祝賀会を開催しています。

地域行事としては、遊休農地を住民相互で管理する「本田ふぁーむ」。毎月 11 日に東日本大震災の記憶を忘れないようにと安全黄旗の活動を展開し、黄旗の活動は他地区へも波及しています。また、新しい活動として同じ班内の高齢者を集め、輪番制でのごはんの会を企画。おたがいさまでの支え合い体制の第一歩となっています。



鉄西行政区 (登米町)

主な活動内容

『お互いに支え合い 安心・安全な地域を』

お茶っこ会「喜楽(きらく)会」を母体として、地区内高齢者全員を対象としたお茶飲み会の実施や、介護予防教室の開催、救命救急講習会等を実施しています。お茶飲み会を誘い合わせて参加することで日常的な安否確認にもつながっており、地区内に支え合いも徐々に浸透し、ミニデイサービスへの男性参加も増え、地区の活性化が図られました。



## 米川一区行政区（東和町）

### 主な活動内容

『今の元気をいつまでも 集う・喋る・笑う・動く』

いきいき元気教室を中心に、「身近な人と共に支え合い、今の元気をいつまでも継続していけるよう、集う、喋る、笑う、体を動かす」を合言葉に、お茶飲みサロンを中心とした地域づくりを行っています。サロン開催日以外でも高齢者宅を訪問し、健康に関するチラシを配布しながら話をする大事な時間となっています。こういった常日頃のつながりが、地域内の高齢者が安心して暮らせる地域となっています。



## 南加賀野行政区（中田町）

### 主な活動内容

『これまでの10年』と『これからの10年』

加賀野土地区画整備事業が終わり、55世帯から230世帯へと地区内の状況は大きく変化しました。

地域内のなかよし公園等で週2~3回グラウンドゴルフを行い、高齢者の社会参加と健康増進を図りました。地域内の施設と協働し防災訓練を行うことにより、緊急時の初動体制づくりと、住民の危機管理能力の向上が図られました。また地域協議会として話し合いの機会が増えたことにより、高齢者等に対する生活支援体制の構築と地域力の大切さを認識しました。また、PTA世代と協議することにより関わりの薄かった子供達との世代間交流も初めて実現しました。



## 新道行政区（石越町）

### 主な活動内容

『いきいきクラブを中心に支え合い』

モデル期間中に、行政区内に地域内の支え合いを考える組織として「いきいきクラブ」を設置しました。区内を南北に分け見守りルートをボランティアで考え確立・実施し、また買い物・外出支援者には会から実費費用を負担する「費用弁償型ボランティア」を実施していました。

そして新たな集いの場としてカラオケルームを開設し、定期的にみんなが集まり楽しめる機会を作っています。



## 米山地区男性ボランティア団体（米山町）

### 主な活動内容

『一歩出て、あそごさ“よっぺす！”』

仕事を退職した男性の居場所づくり（社会参加機会）と将来の担い手育成を目的に新たに立ち上げた団体。町内にある幼稚園、保育園から園庭の除草などの依頼に応え、幼稚園児と一緒に焼き芋づくりをしたり、孫世代へ貢献すると共に、社会参加の一助となっています。また、障子張り、電球交換など会員の特技を活かした活動も米山総合保健福祉センターで実施。今後は地域のお助け隊としての活動を考えています。



## 新高石行政区（南方町）

### 主な活動内容

#### 『世代間交流と多彩な事業の推進』

地域内の住民構成も数年前とは変わってきており、その関係性も希薄になるなど都会化しています。近所付き合い疎遠の解消と、住民同士の意思疎通を目的に、様々な地区行事を実施。防災訓練と運動会の合同開催、世代間交流餅つき大会実施、モデル期間中には子供達と一緒に、行政区内の防災支え合いマップを独自に作成。地区内にある介護施設を訪問し交流を深めています。



## 東二ツ屋行政区（豊里町）

### 主な活動内容

#### 『先輩方から引き継いだ伝統行事を後世へ』

伝統を受け継ぐ事で二ツ屋地区の団結力は強く、地域の大きな財産になっています。地区内で20年以上続いている「人間ばん馬大会」。地区民全員が集まれるイベントで、パン食い競争や玉入れ等を行い、世代間交流とつながり維持が図られてきました。万燈供養、百万遍などの伝統も、東二ツ屋・西二ツ屋合同で今も大事に紡いでいます。

しめ縄作りは老人クラブの方々が、お祭りやお正月に向けて、現在も素晴らしい熟練の技で作っています。二ツ屋地区だけで作られている郷土料理「けの汁」は、根菜や山菜など十数種類が入った精進料理で、地区の先輩方から脈々と受け継がれてきました。

止めること、無くすことは簡単ですが、しっかりと受け継いでいくことで生きがいや地域の繋がりがづくりに寄与している地区です。



主な活動内容

『みんな集まって、にこっとすっぺす！』

近隣同士の顔の見える関係性が希薄になっていることから、自宅を開放し、毎月第1・第3金曜日、第2・4土曜日にお茶飲み会「にこっとすっぺす」を実施。

活動序盤は周知不足もあり参加者数も伸び悩んだが、指定期間後半には徐々に住民の理解も進み、認知されてきたのを実感しました。広報誌等での活動紹介の成果もあり、柳津地域の住民から同じように始めてみたいとの声も聞かれ、この活動が認められ波及していったと感じました。



■第2期（平成29年10月～平成31年3月）

新田駅前行政区（迫町）

主な活動内容

『一人ひとりが主人公になれる地域をみんなの手で』

迫町で最も高齢化率が高い行政区であることを考慮し、地域づくりの担い手である若年層が、自治会活動にも参加しやすいような雰囲気づくりと、3つのお茶飲み会（とんからりん・ひまわり会・牛ヶ沢お茶っこ飲み会）で健康づくりと交流を行っています。また、毎週木曜日に健康増進を目的にグラウンドゴルフを実施。

地域内の広報誌「ハートフルステーション」の発行や、三世代焼肉大会などで、地区内の顔の見える関係性を構築しています。また、地区内にある特養せくれ入所者との交流も重ね、非常時には地域住民の協力で避難する体制も構築されています。



前舟橋行政区（登米町）

主な活動内容

『つながりと活気あふれる地域を目指して』

前舟橋行政区は、以前は地区行事も活発でしたが、少子高齢化の影響で勢いが無くなってきたそうです。その為、地域全体の仲間意識も薄れている状況であり、モデル指定をきっかけに地域のつながりづくり強化を目指し、活動を進めました。

お互い様の地域再生を目指して、65歳未満を中心とする“地域づくり改善委員会”を発足。町内会サークル活動（友和会・きらく会・スポーツ愛好会・ミニデイ・子ども会）の活性化として、福祉ミニ講座を開催するなど、地域で安心して暮らしていくための懇談を深めています。

また、地区内の新たな集いの場として「前舟橋カラオケ愛好会」が発足。声を出すことで介護予防になり、楽しみにする男性高齢者も増え、社会参加につながっています。



## 米谷二区行政区（東和町）

### 主な活動内容

『目指すは行政区内の親睦と融和』

米谷2区行政区は、町内会組織が3つあり、それぞれに町内会長が設置されています。その為、行政区全体での事業開催も難しい状況となっておりますが、モデル指定を受け、新たな地域づくりを目的とし3つの町内会の代表を交えた協議を始めました。

地域の課題把握と情報共有に努め、コミュニケーションの場(一環)として世代間グラウンドゴルフ交流大会を開催するなど、徐々に成果が見え始めています。

今後の少子高齢社会を考え、3つの町内会の力を合わせ、「気持ちを一つに地域を元気に！」するために、様々な活動に取り組んでいきます。



## 舟場行政区（中田町）

### 主な活動内容

『高齢化率登米市第1位・絆の強さ第1位を目指す。』

市内で最も高齢化率が高く50%を超えています。地区ボランティアの高齢化、参加者減少により休会していたミニデイサービスを再開し、地区内の若手で構成された「ゆかいな仲間たち」(※会の名称)を中心に地区行事を積極的に開催しています。お正月の門松作りの指導を地区内の高齢者をお願いすることで、高齢者の生きがいと役割ができ、昔から続けているどんと祭では世代間の交流が図られています。

また、地域内には散歩グループも数グループあり、個人宅のお茶飲みを通じ、ゴミ捨てや安否確認など自然な支え合いが構築されてきています。



## 第四行政区（石越町）

### 主な活動内容

#### 『新集会所を拠点に第四カフェかわりねすか開催』

日当たりの良い新築の集会所には、住民が気軽に交流できるように縁側を設置しています。ミニデイサービスとは別に「第四カフェかわりねすか」を毎月開催し、この活動を充実させ、地区内の顔の見える関係性の強化と、健康増進への取り組みを行ってきました。講師には地域内の活動者に依頼し、地域住民に「地域のお宝（人材）」を披露する機会ともなっています。また、人が集まることで地区内の課題が見えやすくなり、課題解決に向けた取り組みを行うほか、婦人部を中心とした見守り・声掛けのパトロール隊結成について検討するなど、モデル期間終了後も継続して地域づくりを進めています。



## 山吉田行政区（米山町）

### 主な活動内容

#### 『集いの場から始まる“健康づくり地域づくり絆づくり”』

山吉田行政区では、平成 29 年 8 月までミニデイサービスが未実施でしたが、地域内の顔の見える関係づくりと、健康づくりのため、新たに始めました。毎回趣向を凝らした内容（消防署…台風の脅威避難、警察…振り込め詐欺と交通安全、包括支援センター…フレイル予防と健康長寿など）で学びの場や地区の博識な方から地域の地名や成り立ち、昔話などの話もあり、知識を披露する場（地域の担い手・活動の場）にもなっています。また、男性にも役割があり、男女分け隔てなく活動を共にできています。

冬期間限定でビニールハウスを活用した「男のつどい場」を展開しており、男性の社会参加機会づくりと、地域の担い手として強固なつながりづくりを行っています。夏期間は東屋に場所を移し、釣りなどで交流を図っています。



## 大門区親睦会（南方町）

### 主な活動内容

『おたがいの弱みを見せ合う“地域家族”を目指す』

一人ひとりの思いを尊重しながら、より良い人間関係を作る「仲間づくり」と、自分の存在や生きがいにつながる「役割づくり」を念頭におき活動を行ってきました。

月初めには定例の役員会を開催し、毎月の行事の確認と、大門区の課題について検討します。まずは健康第一につながる活動として、毎月1回、健康体操、カラオケ、民謡の集い場を開催しています。また、地域の次世代を担う子供達へ地区文化の伝承を目的に交流事業も実施しています。

これからの目標としては、「人とつながる生き方」、「行く所がある生き方」、「何かをすることがある生き方」を目指し取り組みを進めていきます。



## 山根行政区（豊里町）

### 主な活動内容

『生きがい活動で健康寿命を延伸！！』

山根行政区は、豊里町内でも少ない世帯数ではあるが、地域内では未就学児や小学生も多く、子育て応援隊「じいじ・ばあばの会」を発足しています。まとまりのある行政区で、住民みんな子ども達を把握し、世代間交流を中心に活性化を図ってきました。ミニミニ運動会や、クリスマス会を開催する事で、世代を超えた笑い声が地域内に広がっています。

また、ミニデイサービスには多くの男性が積極的に参加している地区であり、男性参加者からの要望もあり、グラウンドゴルフ・お茶っこ会（パプリカ）を企画しています。

子ども達との触れ合いを通して、高齢者の介護予防や生きがいへと繋げ、軽スポーツ（ペタンク・グラウンドゴルフ）や健康体操を行い、地域をあげて健康寿命を延ばす取り組みを実施しています。



## アルカス（本町三・四丁目）（津山町）

### 主な活動内容

#### 『閉じこもり防止のための居場所づくり』

本町三丁目の旧電気店“カネキ”の店舗部分を活用し、地域の「ミニデイに行くことができない高齢者」や、「一人暮らし高齢者」の方を対象とし、毎月第2・4土曜日に、お茶飲みやおしゃべりを楽しんでいます。男性の一人暮らしの方には、食事のお裾分けを持って訪問確認を行うなど、地域内での支え合い活動も広がっています。

同じ地域、近隣同士でも数十年ぶりに話をしたという方もあり、設置の効果が見えたようで、参加者からも継続実施の希望もあり、現在はシニアサロンとして活動をしています。

※アルカスはスペイン語「虹」を意味し、日本語の「歩かす」にも掛けているようです。



■第3期（平成30年10月～令和2年3月）

NPO 法人スマイルむさし（迫町）

主な活動内容

地元の元気高齢者が栽培した野菜などの食材提供をいただきながら、地域の居場所づくりとして地域食堂「とめ☆スマイルキッチン」を定期的で開催しています。

子ども達への食の提供、食育だけでなく、地域住民の協力を得ながらコミュニケーション豊かな地域づくりを目指しており、子供から高齢者までが集まる行事として、昔遊びや工作教室、心肺蘇生法講習など、多種多様な行事を毎月第2土曜日に定例開催しています。



ビッグネット DDPC（迫町）

主な活動内容

大網地区周辺の民生委員児童委員 9 名で地域課題解決の会（団体名）を立ち上げた、「子どもたちの生活圏に安全安心で、信頼できる大人が見守っている場を継続的にあることが大事」を実践する場「子どもの居場所」を月・水・金曜日 15 時 30 分から 17 時 30 分まで運営しています。この地域はアパートなどが多く流動人口が比較的多い特性から、地域に慣れないなど出不精からの孤立が懸念されていることから外出機会づくりと運営リーダーへの支援を行っています。住民には車を持たない方もおり、移動手段の確保など生活支援体制の課題解決に地域の 30 代、40 代の方々の力を生かした担い手づくりの実践をしています。



## コーチズみやぎ（南方町）

### 主な活動内容

幼児から高齢者までを対象に、健康増進、介護予防に効果のある広島生まれの「ガンバルーン体操」を通じた取り組みによる集いの場を支援しながら、地域のつながりづくりを応援し、「地域家族」の支え合い・助け合いの精神の向上を図っています。

現状では、東和、豊里、石越町域からの依頼が多く、それ以外の地域での認知度は低くなっているため、周知を上手に行いながら更なる展開を図っていきます。



## 松葉老人クラブ（南方町）

### 主な活動内容

多世代への継承が弱体化した今、地域に眠る伝統・文化・風習、郷土料理、行事・しきたり等を、高齢者を中心に探し、ワークショップ等を行いながら第1弾「おらあーのふるさと松葉だべっちゃ〜」第2弾「探せ！おらほの宝物！」と題した冊子としてまとめ、次世代への継承活動に取り組んでいます。

この活動を通じ、高齢者の孤独化防止、居場所づくりを通じた介護予防につながり、ますますの地域発展に尽力していきます。



○圏域キャッチフレーズ

「生活支援体制整備事業」という名称に馴染みがないため、キャッチフレーズを選定し広報誌への掲載、公用車へのマグネット貼り付けなど、広く周知できるように作りました！



○広報誌発行

生活支援体制整備事業の啓発・推進を図るため、登米市全域のキャッチフレーズ「おたがいさま」の名称で広報誌を発行しています。



# 迫圏域



▲高齢者の介護予防には、趣味や特技を活かした活動や家事、積極的な人付き合いや社会参加が有効であり、こうしたお茶っこ会が大切な交流と情報交換の場になっています。(内町グラウンドゴルフ愛好会)



▲さまざまな特技や趣味活動に活躍する住民の生きがいづくりとして、また地域住民の社会参加として行きつけサロンを開催しています。写真は切り絵教室を開催したもので、大好評でした。(行きつけサロンおでって)



▲救急医療の現場では秒単位の差が生死を分けることも少なくありません。「命のバトン」として緊急時に必要な医療情報を専用容器に入れ、迅速な救急活動に役立てます。みんなで守り、支え合う地域づくりを目指しています。

(東表行政区吐出集落)

迫圏域の活動は「地域住民が主役」になれる内容を「ロンおでって」が始まりました。町内のコミュニティの内容を企画。毎回内容を変え開催し、今では町内の(げる人)を講師とし、身近な人から教われるアットホームな、ビッグイベントとなった「おでって net 杯」が回180人超の方々に参加いただきました。足腰に不同じグループになった人が支え手となり、迫圏域の「おでって」が出来たことに万感の想いがありました。

今後の展開として、小さな変化も見逃さないような地域住民全てが関わり合いの持てる仕組みやきっかけ

▼マフラーの巻き方教室を通し、おしゃれをすることで、生活に張りが生まれました。また、社会参加の楽しみに繋がり、地元企業の社会貢献活動を知ることができました。(行きつけサロンおでって)





▲地域貢献として、福祉施設での車椅子の清掃や町内の花壇の草取りなどの環境美化活動にも積極的に取り組んでいただいている企業が地元が存在しているということは、とても頼もしいことです。(パーラーJ遊)



▲交流と親睦、健康づくりを目的に町内から多くの皆様にご参加いただきました。大会当日は迫圏域協議体委員による大会運営と地元ボランティアによる炊き出し支援もあり、みんなの手で支えられている大会です。  
(おでって net 杯グラウンドゴルフ大会)

協議体委員で模索し、平成29年度から「行きつけサ  
推進協議会等と連携し、自分の趣味にも取り入れられ  
凄腕達人（趣味の範囲を超えるような作品等を作り上  
ムなサロンを展開しております。  
ラウンドゴルフ大会」は3回開催することができ、毎  
安があり普段出歩くことがままならない方も参加し、  
キャッチフレーズであり大会名称にも使われている「お  
見守り体制の充実化を図るとともに高齢者のみならず、  
づくりに「おでって」出来ればと思います。



▼ネイルボランティアによる爪のケアや自分好みの色  
を選びネイルを楽しみました。  
(行きつけサロンおでって)



▲集会所の新設に合わせ、子どもから高齢者まで多くの  
方が交流できるように自治会主催で「納涼祭」が開催さ  
れました。住民の皆さんの憩いの場として有効活用さ  
れています。(永田行政区友愛自治会)

# 登米圏域 協議体



▲空前の「玄米ダンベル」ブームに乗っかり、登米でも流行にのりました！写真は中田町「お笑いダンベルの会（通称：ODK15）」の皆様によるダンベル体操を披露していただいている様子です。



▲「寺酒屋」ひと目では分かりにくいですが、読んで字のごとく、「寺で酒」です。男性の連れ出しとして「酒」を使いました！やはり、「酒」があると男性は来ます！こんな集いの場も必要ですね！



▲「玄米ダンベル」ブームは更に輪を広げ、実際に講座を開催するところまでいきました。主に女性の参加でしたが、健康づくりに余念がない方々の集まりになり、少し苦しくても、自分のため、未来のために励みました！

「さんぽランドカフェ」を平成29年度より始め、1・ンベルを集まるきっかけにしました。3・4年目は誰もと内容を変え、誰でも参加できる行政区を越えた交流・しずつ増え、参加者より普段関わりの薄い方とも自然内容は全く関係ありません。地区名が隠されているの令和元年度は登米地区連絡会発案「男のつどい場inすい集いの場にはお酒がポイントであることから、協した。こだわりの鍋と委員お手製の竹のコップで乾杯「男のつどい場inペタンク」として令和元年度に開催のつながり強化を目的に室内ペタンクで交流を図りま15チームに参加していただき大盛況でした。

▼男性は凝り性が多いと聞きますが、自分が呑むコップを手作りしては、という発言から、竹を切り出し、丁寧に削り、マイコップを作りました！





▲新たに手法を変え、ニュースポーツ「室内ペタンク」にシフトチェンジ。これまでは女性の参加が多かったのですが、男性参加率も大幅に増え、目的でもある「交流・健康づくり」が達成されようとしています！



▲以前までは、社協職員による運営主体ですが、協議体委員による審判講習会を経て、自分たちでルールを理解することから始まり、「他人事」ではなく「我がごと」として運営できるようになりました！

2年目は当時ミニデイサービスでブームだった玄米ダが気軽に取り組めるニュースポーツ「室内ペタンク」健康づくりを目的に開催しています。男性の参加も少に交流ができたと好評をいただいております。名称とだとか。。

寺酒屋（じざかや）を開催しました。男性も参加しや議体委員のお寺（玉秀寺）を会場に交流会を開催しまし、団体間の交流が深まりました。

しました。男性の社会参加の場づくり、関係機関の横した。トモダチ作戦で参加団体を募り、11 団体から



▼「寺酒屋」情報が県内を飛び交い、県社協より事例発表としての依頼がありました！登米地区協議体委員長による成り立ちや経緯を説明。少し緊張気味でしたが、とても分かりやすく話していただきました。



▲「玄米ダンベル」から「室内ペタンク」に流行が変わった登米では、集いの場も「ペタンク」一色になりました！写真でも分かるように、大勢の皆さんに参加してもらい、大盛り上がりでした！

# 東和圏域 協議体



▲男のつどいの場として始まった「男愉～会」。いつもワイワイガヤガヤしながら、楽しんでいます!!今はコロナ禍で以前のようににはできませんが、またいつも通りに集まって、楽しみたいですね。



▲「駄菓子」はいつの時代も人気です!!自分の好きなものを選ぶことからワクワクして、買った後にはおいしさと楽しさの両方が味わえる魅力があります!!

平成 29 年度より、町内 3 公民館の協力で「男愉～げました。現在は米谷公民館を会場に月 2 回健康麻雀地区からの参加も増えました。楽しむこと、考えること、平成 30 年度からは、「ふれあい駄菓子屋」を始めを目的に、地域の方々の協力をいただき、米谷ふるさ來場者との交流もしつつ、駄菓子屋としても好調でし令和元年度には、「支え合いの地域づくり研修会～広学志水田鶴子氏を講師に迎え、暮らしの中で様々な人参加者からはこれからも自信をもって取り組みたいと令和 2 年度は令和元年度の研修をふまえ、「東和のおを地域のお宝と捉え、町内 3 団体に活動発表を行ってものを共有する機会となりました。



▲『東和のお宝発表会』  
もっと魅力ある「米谷」、「東和」そして「登米市」になるように…(米谷地区「米谷のみらい」)

▼『東和のお宝発表会』  
若草山に残る人間愛の逸話と景観環境の保全活動を行っています。(米川地区「若草山に関する保全活動」～若草山みどりの会/黎明の郷づくりの会～)





▲どれにするか迷い、2〜3周する人も…。一回買っては堪能し、また買い物を楽しんでもらい、大好評でした!!



▲「支え合い」とは言うものの、何をどのようにして支え合っていくのか、なぜ必要なのかを学ぶことができました。(支え合いの地域づくり研修)

会(だんゆ〜かい)」として、男のつどいの場を立ち上を楽しんでいます。最近、米谷地区だけでなく米川話すことをモットーに活動しています。した。「子どもからお年寄りまで楽しく交流できること」と文化祭・錦織公民館まつりに出店しました。当日はた。げよう!おたがいさま〜)として、仙台白百合女子大や活動と関わることの積み重ねの大切さを学びました。意気込みが聞かれました。宝発表会」を開催しました。地域の集まりや支え合いいただきました。東和にすでにあるもの、できている



▼『東和のお宝発表会』

「切り麦」がつかない集いの場になっており、切り麦をつくり、食べながら地域の情報交換の場になっています。(錦織地区「切り麦研究会」)



▲錦織地区では地域全体で集える場としてサロンを公民館と共催で始め、介護予防の体操やレクリエーションをして楽しんでいます。(錦織すこやかサロン)

# 中田圏域 協議体



▲平成28年結成「中田町お笑いダンベルの会」ODK15  
中田町老人クラブ連合会女性部役員の方々を中心に、玄米ダンベルの作成と販売をしながら、自身も健康づくりからダンベル体操を学びつつ地域支援へと活動しています。



▲「かわりねすか！と今日もまた」  
舟場行政区は、高齢化率が50%を超え登米市ナンバーワン。多くの方が健康づくりのためにウォーキングを行っています。高齢化率が高いのは、元気高齢者が多いからだと感じました。



▲「日本音健アワード2019」最優秀賞受賞  
日々の練習や活動、そして仲間づくりをしながら自分たちの成果が認められる機会となりました。東北福祉大学鈴木玲子先生のご指導の下、「日本音健アワード2019」で日本一となる最優秀賞を受賞いたしました。

中田圏域では、協議体委員、ミニデイサービス・シと一緒に、「なぜ集いの場が必要なのか？」を考えまし開催しておりますが、これから課題となってくる、2て暮らすために】「感じること」「見えること」「私たち話し合いました。これからも地域の誰もが安心して暮と思ひます。

「中田町お笑いダンベルの会」「男前ダンベル」は、貢献をしているグループです。それぞれの得意分野をがら地域との繋がりを作ってきました。今後も、集いたいと思ひます。

\*「日本音健アワード」は、高齢者の健康をテーマとし授与される賞です。

## ▼「あっぱれくべ」趣味活動

“日曜大工教室”の方々へ浅水ふれあいセンター多目的ホールの冷房のカバーが欲しいとの声が届き制作をしました。地域の皆さんからも大変喜ばれ趣味活動が地域貢献へと繋がりました。





▲「日本音健アワード 2020」最優秀賞受賞  
 コロナ禍の中でも“自分たちの活動を”と日々練習してきました。お笑いダンベルの会に続けと「日本音健アワード 2020」へ挑戦。見事！登米市から2年連続最優秀賞を受賞することが出来ました。

▲平成29年結成『男の集い場「男前ダンベル」』  
 ダンベルに興味のある方へ声かけをし集まった15人からのスタートとなりました。自分自身のダンベル練習や、ダンベルを通じた学びの場を作り、障害施設『奏海の杜』デイサービスの子供たちと交流と伝達の時間を持っています。

ニアサロンお世話人、福祉活動推進委員など様々な方た。現在、ミニデイサービス・シニアサロンは全地区025年問題へも視野を広げ、【地域の誰もが、安心しができること】「皆さんが知っていること」などを出し、らすために、自分たちができることを考えていきたい

健康増進に関心のある方々が集い、活動しながら地域取り入れ、高齢者施設や幼稚園等へ交流と伝達をしながら場など地域のニーズを見つけ生活支援に繋げていき



た秀逸な「うたと音楽」を使ったレクリエーションに

▼ボランティアで地域とのつながり  
 子ども広場にこま〜る（障児放課後等デイサービス）に通う高校生に、配達ボランティアとして協力いただいております。地域とのつながり、コミュニケーション、社会の仕組み等を学び、毎回、打ち合わせや反省会を行い、社会に出るための練習として、とても重要な活動となっているそうです。



▲助け合いゲームで地域のつながり再確認（八幡山行政区）  
 自分自身が普段言えない「こまったなあ！」「助けて！」をゲーム感覚で話し合える“助け合いゲーム”を実践。手伝ってほしいことをカードから選び、みんなに知ってもらうことで、近所の繋がりを確認することができました。

# 石越圏域 協議体



▲黄色い旗でキャッチボール（海上連行政区）  
黄色い旗を全世帯に配布し、災害の安否確認、困った時の合図として掲げるようにしています。地域の皆さんの安心な生活を見守るためパトロールを行っています。



▲『男の集い場』（いしこし大好き）  
産地直売所の中に食堂があり、昼食時は男性のちょっとした集いの場となっています。趣味や畑の話に花が咲き、楽しい時間となっているようです。



▲『笑友屋カフェ』  
石越コミュニティ運営協議会と共催で集いの場、介護予防、担い手づくり、住民同士の繋がりを作るきっかけになればと、『笑友家』を会場に玄米ダンベル教室、フット・ハンドマッサージなどを開催しました。

石越圏域は、平成 29 年 9 月に地域内のニーズやサポート調査を実施しました。生活支援の中の移動支援に課題や問題『自分たちにできることは何か』『将来のしてきました。令和元年 10 月より”住民互助”を合言葉』が始まりました。運行開始から 1 年 6 カ月が経過ではおしゃべりが弾み、情報交換の場となっています。住民のための、助け合い”がこれからも続いていきます。

▼『いしこし助け合いサービス』  
オレンジ色のジャンパーとベストを着用し、車にステッカーを張り、利用者がわかるように示し、安心して利用してもらえるように考えています。





▲しめ縄作り（第十行政区）

21年間続く伝統行事。お正月に向け、老人会を中心に制作活動が行われており、完成したしめ縄は、地区全戸に配布されています。この会の最高齢は佐藤典夫さん(当時95歳)『伝統守ることは、地域そのものを守ることなんです。』とおっしゃっていました。



▲『だがし屋カフェ』

小学校の振り替え休日を使い、世代を問わず地域の人が誰でも気軽に集まれる場所づくりをと、石越町ボランティア協会とバルーンボランティア等の協力を頂き、子供たちと地域交流の場となる機会が作れました。3回開催と回を増すごとにお客様の数も増えてきてます。

手を把握する目的として 50 歳以上の方を対象にアン関するニーズが高かったことから、移動支援に目を向自分たちにも必要なことは何か』を協議体委員で解決葉に会員制の助け合い活動『いしこし助け合いサービし最近では利用者の数も少しずつ増え、送迎中の車内『ありがとう、助かる!』の言葉に支えられ“住民による、



▼『いしこし助け合いサービス』出発式

令和元年10月サービス開始!! 幾度にも話を重ね、出来たサービス。研修会や関係機関の方々から話を何度も伺い、より良いサービスを提供できるよう試行錯誤し開始に繋がりました。



▲『ローソン移動販売』

買い物困難者のお役に立てればと、毎週水曜日、町内を回っています。個人のお宅も回ります。ご家族さんからの連絡も待ってます。

# 米山圏域協議体

千葉春利委員長



▲平成 29 年度～令和 2 年度  
地域の方に気軽に利用してもらおうと、月・水・金の週 3 回米山総合保健福祉センターロビーでセルフサービス方式の「カフェよっぺす」をオープン。

## ▲平成 28 年度

米山地区協議体では、孫世代の安全と安心を願い、大先輩たちへの敬意と感謝の活動をモットーに、ピンポンコロリを合言葉に進めていくこととしました。

平成 28 年度に事業が始まり、地域の支え合いと、地域活動している住民の方を中心に、関係の深い専門の話し合いを重ねてきました。平成 29 年度は自分達ターロビーに「カフェよっぺす」をオープン。特技の催しながら、センター敷地内にある「イベント広場」当初から、交通手段の課題があり、平成 30 年度に「地多くの方が、助け合い送迎を必要と感じていることがドの研修を行ない、令和 2 年度にバスの乗り継ぎ体験踏まえ、改善点について米山総合支所を介し、バス運の声を聴きながら、より地域に密着した取り組みを目

地域包括支援センター  
管理者石川由美委員

三浦きさ子委員

市民課長  
佐々木克哉委員



▼令和 2 年度②  
「バスで GO!」の 2 日目は、佐沼循環コースの検証です。バス停で時間を待つ高齢者さんや、時間調整中のバス運転手さんからお話を聞くことができました。

## ▲令和元年度～令和 2 年度

イベント広場の活用目的で開催しているグラウンドゴルフ交流会。令和 2 年度は協議体関連の団体から参加者を募り、多くの方にご参加いただきました。





▲平成 30 年度

NPO いわて地域づくりセンターの若菜氏を講師に、米山・南方圏域協議体主催「地域の助け合い送迎を学ぶ研修会」を開催。93 名の方に参加いただきました。

佐藤謙一委員



渡辺三郎委員



大友孝一委員



▲平成 30 年度～令和 2 年度

協議体委員を代表して、大友委員が「血液のお話し」を、佐藤委員は「防災とキャンプ」について講師役を務め「よっぺす講座」を盛り上げました。

地域づくりを進める場として協議体が設置されました。職や団体で委員を構成。「米山にあったらいいなあ～」でできる居場所づくりとして、米山総合保健福祉センターある地域の方を講師にお願いし、「よっぺす講座」を開きグラウンドゴルフ交流会も開催してきました。活動域の助け合い送迎を学ぶ研修会」を開催。参加された分かりました。また、令和元年度には登米市のデマン「バスでGO！」を実施。協議体委員が体験した結果を行会社に繋げることもできました。令和 3 年度も地域指していきます。

岩淵佳子委員



佐々木義昭委員



橋浦義一委員



▼令和 2 年度①

協議体委員が 2 日間にわたり住民バスと市民バスの乗り継ぎの体験を行なう「バスでGO！」を実施。初日は豊里病院コースを検証しました。



▲令和元年度

草が伸びてきた「イベント広場」。協議体会議でピンピンコロリの場にしていこうと決定し、使用する団体のために、佐々木委員が除草作業を行ないました。

# 南方圏域 協議体

渡邊忠雄委員長



## ▲平成 28 年度

協議体会議の中で「お茶を飲みながら誰でも気軽に話せる場所が欲しい」の意見が出され、カフェのような集いの場の立上げを目指すことで話が進みました。

阿部常道委員



佐藤裕子委員



高橋利典委員



## ▲令和 2 年度

実際に高齢者の見守りを行なっている配食の配達ボランティアさんと合同で「認知症研修会」を開催。見守りのポイントについての情報交換も行いました。



## ▲平成 29 年度

10月のみなみかた秋まつりで1日限定のお試しカフェを開催。来場者の方にコーヒーを提供しながら、集いの場に関するアンケートを実施しました。

平成 28 年度から始まった生活支援体制整備事業。高て、住民の方々による協議体を発足し「南方にあつたら喫茶店のような集いの場が欲しい」との声が上がり、平を出店。翌月からは毎月定例の無料カフェ「よっぺすカフェ」となった協議体委員の思いは『一人の話は、地域のこる方は、何度も足を運ぶうちにスタッフ側に加わることしようと、登米市米山・南方地域包括支援センターや登症講座や健康教室を開催。令和 2 年度は新型コロナのに、今できることは何かを話し合ってきました。令和 3 い理解など、支え合いの新たな取り組みをスタートしま

## ▼令和 2 年度

カフェの活動がコロナのために自粛。協議体で検討を重ね、南方で昔から行われてきた地域の支え合いについて、大嶽山興福寺の住職からお話を伺いました。





▲平成 29 年度

11 月の第 2 水曜日から毎月定例で南方公民館のロビーをお借りし、カフェをオープン。スタッフのユニフォームは洋裁の得意な新田委員の手作りです。

高橋充副委員長



市民課長  
千葉敬実委員



地域包括支援センター  
千葉ゆかり委員



▲平成 30 年度

協議体の渡邊委員長も、訪れた住民の方に特技の南京玉すだれを披露。スタッフ全員で来ていただいたお客様をもてなしました。

「高齢者の介護予防と地域での支え合いの充実を目指したいなあ～」を話し合う中で「誰でも気軽に寄れる成 29 年 10 月の“みなみかた秋まつり”でお試しカフェ「みなみかた」をオープンしました。カフェスタッフとして耳を傾けること。コーヒーを飲みに来たあもありません。平成 30 年度にはスタッフも勉強会を米市健康推進課の保健師、栄養士の協力を得て、認知影響でカフェ活動が休止となる中で、人と人を繋ぐ為年度は「コロナ禍でもできる見守り」や認知症の正し

高橋福委員



鈴木きぬ糸委員



新田順子委員



▼令和元年度

カフェで「新聞紙で作るブローチ」の手芸講座を計画。作り方を知っている鈴木委員を中心に、スタッフ同士で教え合いました。



▲平成 30 年度

仙台から「認知症当事者の会」の事務局代表の方をお招きし、認知症ご本人の想いを伺うことができ、私たちも正しい理解と支援が大事だと学びました。

# 豊里圏域 協議体



▲平成30年5月31日、第1回青空マーケット開催!!  
場所は平筒沼自然学習館。参加者140名。テントブースを設け、主に地域の手芸等愛好グループによる展示販売会を実施しました。



▲令和元年11月3日、豊里多目的研修センターを会場に第4回青空マーケット開催!!  
参加者305名。バザーとのコラボで、多くの参加者に恵まれ、豊里町ボランティア友の会の方々が活躍でした。



▲第1回青空マーケットにて、地域の方々に人気のグラウンドゴルフ大会も行いました。これを機に、スポーツでの交流を深める機会が増え、楽しみながら住民同士繋がりが合えるきっかけ作りにもなりました。

地域の方々から、今後も続けたいとの声が多数寄せマとして企画・実施し、世代を問わず、子どもからお年を目的に開催してきました。準備から片付けまで沢山さを実感できる機会となっています。町内の方々は、ても実施しています。買い物はもちろんですが、品物るようです。令和2年度はコロナウイルス感染防止の催を実現し、地域の方々笑顔で繋がりが合える場を作

平成30年度は、健康マージャンや、だがし屋カフェで、「地域福祉懇談会」で、地域の方々や小学5年生かます。社会福祉協議会を知ってもらうきっかけ作りをしています。

▼令和元年5月28日、豊里花の公園グラウンドを会場に第3回青空マーケット開催!!  
参加者75名。地域の方々の貴重な交流の場となりました。グラウンドゴルフ大会も同時開催しています。





▲平成30年度、健康マージャン開始。高齢者の趣味活動の場を増やしていく・男性の集える場所を増やしていく等の目的として始めました。お金を掛けない・タバコを吸わない・お酒を飲まない、健全なマージャンです。



▲平成30年10月22日、「第1回だかし屋カフェ」開催!!当初は試験的な試みでしたが、想像を超えるほど沢山の子ども達が訪れ、お菓子は1時間程で完売!子ども達の、お金の使い方を学ぶ機会にもなりました。

られている青空マーケット。皆が元気になる活動をテーマに、地域の方が誰でも気軽に集まれる場所作りの方からご協力を頂く事で、地域での支え合いの大切手芸・創作活動の得意な方が多く、展示発表の場としての作り方や材料などを聞く情報交換の場にもなっている観点から開催する事が難しかった為、令和3年度は開きたいと思っています。



の事業も始めました。だかし屋カフェは豊里が発祥から出た意見を参考にしながら企画した事業となっており、今では他の事業と合同で企画し楽しま

▼第2回青空マーケット、リサイクルバザーと同時開催。前回、駄菓子屋が早めに売り切れになった経緯から、「だかし屋カフェ」も企画しました。マジックショーも開催され、大人から子どもまで、沢山の来場者がありました。

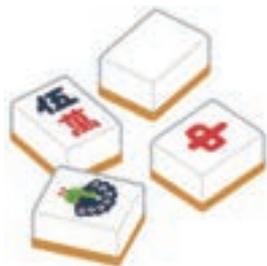


▲平成30年11月24日、豊里多目的研修センターを会場に第2回青空マーケット開催!!参加者276名。開会前に並んで頂いた方々に、おしるこを提供し、大変喜ばれました。

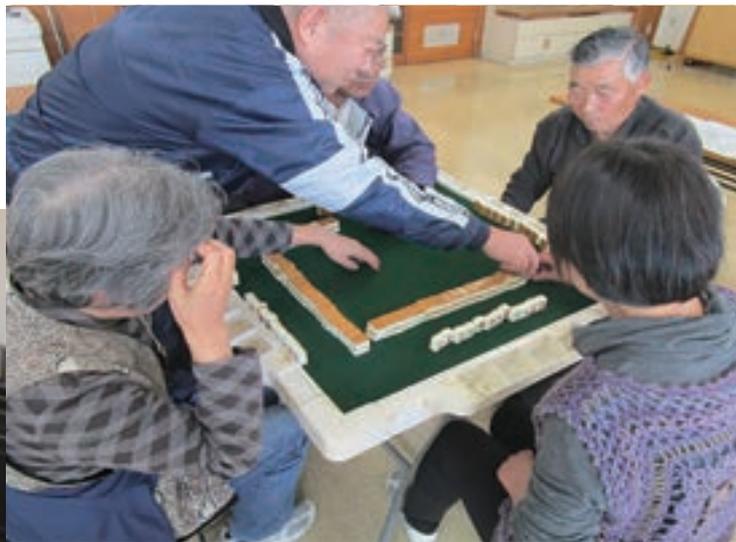
# 津山圏域 協議体



▲「健康マーシャン」は集中できることがあると毎日が充実します。活動できる仲間がいると、笑顔も絶えません。「楽しい」が、継続できる力になります。「集う」ということの大切さを教えてくれました。



▲ 移動販売は、みなさんの集いの場にもなっています。「今日は遅れているようだね。」待っている間は政治や環境、甲子園など、これが本当の「井戸端会議」ですかね!!



▲上がり手を考えることに全集中!!  
今はコロナ禍で開催は見合わせていますが、感染予防を十分にし、開催できるように飛沫防止や手指消毒、もちろん静かな健康マーシャンを開催していきます。

どこの地域でもあることですが、津山においては、男とが健康につながると「健康マーシャン」が始まりました。「気軽に集える場を作りたい」そんな声から始まったが増え、「こんなのやってみたい」という皆さんの「声」れた「つまみ細工おひなさま」がとてもステキにできまも教え合い、今まで以上のつながりが生まれました。ま観覧の場として、「つやま手芸展」を開催しています。

津山は宮城県で唯一コンビニがない町です。商店も数を運ぶこととなります。今では、様々な家庭のかたち、「移動販売」が利用されています。今では、移動販売がています。

▼これまでの「ゆいっこ茶屋」は、内容を社協で決めることが多かったのですが、最近になってから、内容を参加者の声から決めることにし、「つまみ細工おひなさま」を作成しました。





▲「ゆいっこ茶屋」では、制作や鑑賞など多種多様あり、写真の回では、石巻などの災害地を中心にボランティア活動をしている梨木彰さんに来ていただき、童謡や歌謡曲をみんなで一緒に歌いました。



▲「無い」から始まる支え合いの中で、移動販売が来る予定時間に合わせて集まり、皆でおしゃべりをして、買い物ができる一石二鳥です。青空の下でのお買い物も良いものです。



性の社会参加の機会を増やし、集いの場を確保すること。「楽しい」は持続することが可能です。「ゆいっこ茶屋」でしたが、回を重ねるごとに参加者を活かすようになってきました。その「声」から生まれました。参加者同士はもちろんですが、近隣の人たちにも、津山には手芸品づくりが好きな人が多く、作品展示、件程度で日常生活の買い物は隣町もしくは石巻まで足状況にあった田舎町ならではのニーズに沿った方法で来る予定時間に合わせて集まる「集いの場」にもなっ

▼手芸展は作品作りもですが、皆さんとお茶をするのも楽しみのひとつです。お昼は何を食べようか？主婦ならではの話題で、花が咲きます。楽しい時間はあっという間です。



▲津山は手芸品づくりが好きな人が多く、展示会を行うとご近所、お友だちと声を掛け合い、集まって来ます。

# 最終 目標

## 地域のことは 制度・サービスだけ

ご近所さんでないと気づかない、  
ちよつとした変化への気づき



活動の中で、様々な課題への気づき  
につながります。問題解決に向けた  
次の展開がみえてきます。

# 地域で解決! に頼らない地域づくり

まずは話し合い。

ずっと住み続けられる地域には  
どんな活動が必要か?  
みんなで一緒に考えます。

話し  
合い

活  
動



活動することで、新たなつながりや  
活動者の生きがい創出、地域の活性化  
につながります。

## あとがき

### 登米市社会福祉協議会「生活支援体制整備事業」（以降：体制整備事業）の

### 5年を振り返る

体制整備事業の始まりには紆余曲折があり、住民主体で始動するために様々な苦労がありました。第2層協議体のメンバーにあたる方々の中には「新しい役割を担わないといけないのか」「地域共生社会と言われても何のことやら」といったネガティブな捉え方をされたからです。

本来この体制整備事業は、日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター」と「協議体」を配置して、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めるものです。

生活支援コーディネーターと協議体は、助け合い活動の創出・充実に向けて、中長期的視点で、自分たちはどのような地域で暮らしたいか（目指す地域像）を見据え、できるだけ多くの人たちが福祉コミュニティに関わっていけるような働きかけをします。これは、地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みで、従来から取り組んできた「地域福祉」、「福祉コミュニティづくり」の視点を基盤に、既存の活動を充実させたり、新たな取り組みの展開をしていくものです。

また、第2層協議体の委員の皆さんの意識共有や主体性の発揮を目標として、各協議体のキャッチフレーズを考えたり、モデル地区を指定し実践を後押ししました。その後は、モデル事業の公募と助成にも取り組み小さな実践、身近な福祉の創出をサポートしました。

地域福祉フォーラムでは、5圏域の取り組み状況やモデル地区の取り組みを全体共有することから始め、厚生労働省社会・援護局 地域福祉課 地域福祉専門官をお迎えして制度説明や市民が福祉コミュニティを創る意義についてご教示いただきました。

体制整備事業は、地域福祉、福祉コミュニティづくりの視点が基盤であるため、地域共生社会づくりをオール社協で取り組むために、福祉を支える人材・組織の育成として事務方、事業方を問わず全正規職員を対象としたチーム力を高めるための「企画力UPワークショップ」や共同募金の推進や社協理解を進める実践を支所・各課で企画し、公開プレゼンテーションを行う研修、事務事業調査研究委員会では第2次地域福祉活動計画のブラッシュアップにも取り組みました。

平成 30 年度には、「我が丸」情報交換会を開催し、連携を深めるための取り組みとして他市町の生活支援コーディネーターの実践に学ぶと共に、つながりを広げる話の場を設定して情報交換を行いました。

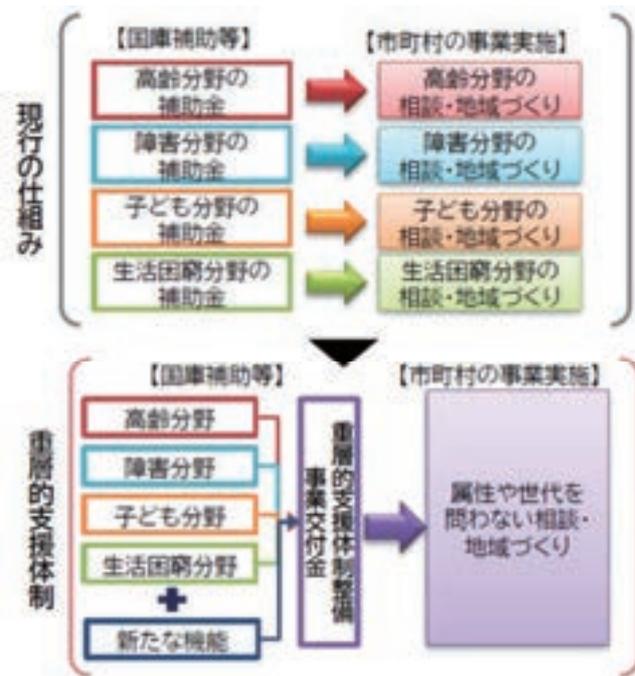
このように、福祉コミュニティづくりへの住民参加と地域福祉を担う人材育成がどのように進んできたのか、各行政区や各圏域の進捗状況から見て取れると思います。これまでになかった地域生活課題の解決方法としての移動販売や地域貢献活動、男性の社会参加、子ども向けの活動、青空マーケットなど素敵な取り組みが生まれています。すでに地域で取り組まれていた活動の発展や継続していくための改善も行われています。

### 今後に向けて

令和 3 年 4 月改正社会福祉法（第 4 条）で、「地域住民、福祉事業者、社会福祉の活動者は、福祉サービスを必要とする住民が地域社会の構成員として、あらゆる活動に参加する機会が確保されるよう行うこと」と地域福祉の理念が整えられました。

社会福祉関係者が相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会の一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めていくことを謳っています。地域共生社会の実現に向けた地域づくりの政策が強化されます。

今後の地域福祉活動では、「地域課題の解決を目指した地域づくり」と「より豊かなくらしを目指したまちづくり」を進めるために、分野、領域を超えた地域づくりの担い手が出会い、新たなつながりの中から更なる展開を生むための“場”が必要となります。現在の高齢・障がい・子ども・生活困窮といった分野別ではない、重層的で属性や世代を問わない相談・地域づくりの体制整備が求められます。



厚生労働省資料を引用

そのために、①支援関係機関同士の連携や情報共有の仕組みが十分に機能しているか、②各支援関係機関が認識する支援対象者の考え方が限定的になっていないか、③社協など特定の福祉推進機関に難しい支援事例が集中していないかを、まず現状確認し、「抜け漏れている支援対象者」や「対応できていないケース」などの有無を明らかにし改善点、重層化目標を立て関係者間で合意形成を図っていくことが大切です。これまでも社協が重点的な事業として取り組んできた「相談支援（属性にかかわらず、地域の様々な相談を受け止め、自ら対応又はつなぐ）」、「参加支援（社会とのつながりや参加の支援）」、「地域づくりへの支援（場や居場所の確保に向けた支援、交流・参加・学びの機会を生み出すコーディネート機能）」を一体的に実施することで、相互作用が生じ支援の効果が高まるでしょう。更には、多機関の協働体制を強化し実践を進めることを意識して欲しいと思います。

#### **地域住民の気かけ合う関係性によるセーフティネットの構築に向けて**

福祉コミュニティという言葉は何度か使用していますが、この福祉コミュニティとは、「地域住民に福祉サービスを提供することを目的としたコミュニティ」のことで、福祉サービス受給者、および各種団体等から構成される「平等な社会参加が完全に保障される地域社会の形成」こそが、その真意と言えます。

福祉コミュニティには、「住民主体・当事者主体とエンパワメント」「地域診断、顕在・潜在する地域生活課題の把握、地域資源の把握や開発」「計画としての目指す地域社会」「対話」「社会福祉サービスの新設・運営と新たな担い手の創出」と言った機能が必要です。

地域住民がお互いを気かけ合いセーフティネットを構築し持続可能な福祉コミュニティを創っていくにあたって、登米市、登米市社協へ期待を込めたメッセージを送りたいと思います。

- 登米市は、市の区域をいくつかに分け、そこに役所の出先やコミュニティ・センターなどを配置し、さらにそこに住民代表的な組織（自治会・町内会）を置く、という仕組みで住民サービスを行っています。住民による自治が全国的に衰退の一途たどる中で、地域における住民サービスを担うのは行政のみではないということが重要な視点です。住民や、重要なパートナーとしてのコミュニティ組織、NPO その他民間セクターとも協働し、相互に連携して新しい公共空間を形成していくことを目指していただきたいと思います。地域共生社会に向けた行政の役割は、地縁型とテーマ型の連携も含め、地域コミュニティ内の潜在しているニーズや新しい活動力を発掘し、住民が主体的に能動的に取り組むことができるチャンスを与えるためのコーディネート、マッチング、フォローアップではないでしょうか。
- 社協の特徴は、地域社会で、何が早急に解決しなければならない活動であるかを見だし、そして福祉コミュニティの機能を活かしてその解決方策を考えようとする点です。問題解決の担い手である市民が声をあげる「住民参加」をオーガナイズする機能が不可欠となります。住民の参加の度合いが高いほど、既存の機関・団体の既得権や専門家的狭量の弊害をさけることができます。住民が主体となり、専門機関・団体は、これに援助・協力を与えるのだという「住民主体」を協議して企画し推進する組織であって欲しいと思います。社協は、地域社会の保健福祉問題を、地域住民の自主的な協働活動あるいは協同事業によって解決しようとする団体です。地域社会の福祉増進のために、市民の声を結集し、世論を動かして、社会福祉制度の創設あるいは改善をはかろうとし、福祉コミュニティに関係のある公私の各種機関・団体の相互協力の場づくりを行う協議体そのものなのです。現状の担い手ばかりに頼ってばかりはいられません。地域福祉は福祉学習そのものであると言われるように、福祉学習を通じた「地域に貢献する人づくり」「人や地域に目を向け気にかける人づくり」にも力を入れてもらいたいと思います。

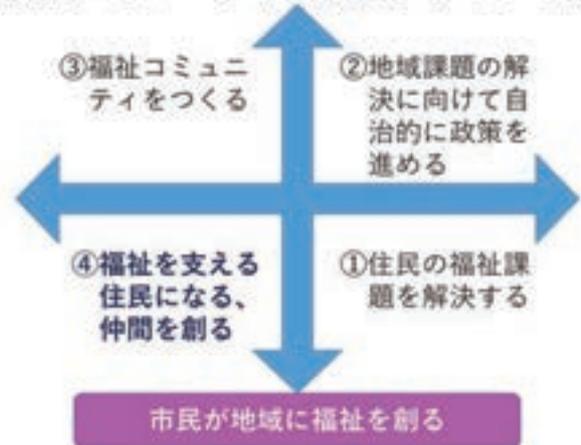
## 市民が地域に福祉を創るために

一人ひとりが、「福祉を支える住民になる、仲間を創る」ことが地域共生社会づくりでは、最も大切なことです。

福祉には力があります。この「福祉の力」とは何でしょうか、日々の生活や仕事の中で「相手を尊重すること」です。職場や地域で様々な人と「つながる力」をつけることです。相手の立場を尊重し、色々な人とつながることで、新たな可能性が生まれ出されるはずです。他分野・他職種の人々とつながることで、自分では解決できない課題の解決方策も見えてきます。

スペシャリストとして自分一人で頑張るだけでなく、上手に人々とつながるために、自分の関心分野とは異なる他分野に関する基礎を知りジェネラリストを目指しましょう！

## 福祉コミュニティを形成する4つの軸



登米市生活支援体制整備事業アドバイザー

コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do

代表 栗原 英文



**広げよう！おたがいさま**

**～たすけ合い・ささえ合い・おらほの宝～**

**【発行日】**

令和3年3月31日発行

**【発行元】**

社会福祉法人登米市社会福祉協議会

〒987-0513 宮城県登米市迫町北方字大洞 45 番地 3

電話：0220-21-6310 FAX：0220-21-6320

**【監修】**

コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do

代表 榎原 英文 氏（登米市生活支援体制整備事業アドバイザー）